

平成23年度 第2回経営協議会議事要旨

日 時 平成23年10月31日（月） 16時00分～17時17分

場 所 学長室

出席者 (学外委員) 井田委員, 大平委員, 沖田委員, 川村委員, 指山委員,
中尾委員,
(学内委員) 佛淵学長, 瀬口委員, 中島委員, 岩本委員, 宮崎委員,
鈴木委員, 稲岡委員

- ・学長から, 新任理事及び新任学内委員の紹介があった。
- ・議事に先立ち, 学長から前回議事要旨の確認について依頼があった。

【 審議事項 】

(1) 国立大学法人佐賀大学学長選考会議委員の選出について

学長から, 本件は, 学長選考会議委員のうち, 経営協議会における学外委員7名を学長選考会議委員とする案件であり, 学内委員7名については, 教育研究評議会評議員から選出されている旨の説明があり, 審議の結果了承された。

(2) その他

特になし。

【 報告事項 】

(1) 国立大学法人佐賀大学契約職員給与規程の一部改正について

学長から, 本件は, 前回(6月24日開催)の経営協議会において「契約医療技術職員(コ・メディカル)の処遇改善について」の議題で審議・了承された後, 7月27日開催の役員会において審議決定し, 4月1日に遡及して適用したことを報告するものであり, 内容としては, 契約医療技術職員独自の給与決定方法を改め, 常勤職員と同様の給与決定及び本給表とするもので, 他大学も同様に実施している旨等の報告があった。

(2) 平成22年度に係る業務の実績に関する評価の結果について

学長から、本件は、国立大学法人評価委員会から示された平成22年度に係る業務の実績に関する評価結果で、本学は、1) 業務運営の改善及び効率化、2) 財務内容の改善、3) 自己点検・評価及び情報提供、4) その他業務運営の項目別評価の4項目すべてが「順調に進んでいる」と評価されたこと及びそのうち、「監査機能の充実」、「社会連携・地域貢献・国際交流等の推進」、「附属学校の機能充実」及び「附属病院機能の充実・強化」の4点が特に評価された内容である旨等の報告があった。

(3) 平成23年人事院勧告について

学長から、本件は、人事院から示された勧告であるが、本年は、東日本大震災の財源確保のため、国家公務員給与減額支給措置の特例法案が継続審議となっており、そのため、今回の人事院勧告の取扱いについては、10月28日開催の閣議において「見送り」が正式決定された旨等の報告があった。

(4) 平成22事業年度財務諸表の承認について

学長から、本件は、平成22年度決算に関する財務諸表について、文部科学省から承認を受けた旨及び平成22事業年度の総利益のうち、目的積立金としての繰越申請額は、全国の国立大学法人の中で本学が一番であった旨等の報告があった。

(5) 平成24年度国立大学法人佐賀大学概算要求主要事項一覧について

学長から、本件は、本学の平成24年度概算要求事項のうち、文部科学省から財務省への要求事項として認められた事業等に関するもので、運営費交付金の0.23%増、特別経費の新規事項の不採択、法人運営活性化支援分(仮称)、附属病院機能強化分及び病院再整備と耐震化適用の要望枠として認められた施設整備費等の主な内容について、概要説明があった。

(6) 病院再整備の進捗状況について

学長から、本件は、附属病院の再整備に関する進捗状況に関するもので、完成予定の南新棟にはソーラーパネルを使用する旨と今後の建築予定等について、概要説明があった。

(7) 佐賀大学における今夏の節電対策について

学長から、本件は、本学の今夏の節電対策についての結果報告であり、節電パトロール等の実施により、対前年度比7.5%(約560万円)の削減となった旨及び今後は太陽光発電やLED外灯を進めていく旨等の報告があった。

(8) 国際交流推進センターの設置について

学長から、本件は、今まで国際課と留学生センターで行っていた業務を統轄し、海外からの留学生受入れだけでなく国内からの学生派遣、学術研究交流及び地域国際連携等を含めた業務を実施していく旨の報告があった。

(9) 附属病院勤務医師等に対するインセンティブ給与支給について

学長から、本件は、附属病院勤務医師等の処遇改善を図り、インセンティブ給与として支給した本年度上半期に関するもので、総人件費改革の枠内及び附属病院収入から支出している旨及び支給内容の概要等について、報告があった。

また、宮崎委員から、「リスクを伴う手技（手術等）」の支給内容等について、詳細説明があった。

(10) 国際医療学講座の新設について

学長から、本件は、国際医療学の充実を図るため、10月1日付けで新設した臨床系医学講座の1講座で、学部及び附属病院における教育・研究・診療を担当し、教育面においては、医学部における医学英語教育の統括を行い、研究・診療では、近年の新興・人畜共通感染症の流行を念頭に感染症医学を担当する部門である旨の報告があった。

また、宮崎委員から、カルテの日本語記載により、医学英語力の低下が著しいため、臨床英語（生きた英語力）を身につけさせることを目的に本講座を設置した旨等の補足説明があった。

(11) その他

特になし。

【 意見交換 】

◎ 佐賀大学美術館・正門整備について

学長から、本件について、学外委員全員が発起人、また、井田委員、中尾委員が美術館・正門整備委員会及び募金WG又は利用WGの委員として参加、ご検討いただいていることに対して謝辞があった。

また、いままでの経営協議会の意見交換の場においても、我々が気づかない点の指摘や参考となる意見等をいただいている旨と今回の意見交換の趣旨として、平成25年10月1日に、旧「佐賀大学」と「佐賀医科大学」の統合10周年を迎える時期に、佐賀大学としてのシンボル又は地方大学の特色として、本学に美術館を設置すると共に、佐賀県の都市計画に沿った正門前道路の拡幅工事の終了に併せ、正門を整備することとし、既に分野ごとの

WGを立上げ検討していることから、今後の参考にするため、外部から見た視点及び問題点等について、忌憚のない意見を伺いたい旨等の説明があった。

次いで意見交換を行い、委員から次のような意見等が出された。

(●は学外委員の意見等，○が学内委員の説明等)

- 本美術館は、佐賀大学附属の美術館となるのか、それとも他の財団扱いとなるのか？
- 佐賀大学所有の美術館として設立するものです。また、本事業は、文部科学省へ概算要求しても予算措置の可能性が難しい事業です。

- 他で美術館を所有している大学はありますか？
- 東京芸術大学だけです。あとは、美術館・博物館、または資料館・博物館として所有している大学があります。

- 有料にするのか？
- すべてを無料にするのは難しく、入館料の問題はあります。また、学内実習ができるように1名の学芸員を配置予定しているため、人件費も必要になります。

- 佐賀市内には、佐賀県立以外に幾つの美術館がありますか？
- 正式な美術館は県立のみです。

- 佐賀県立美術館のコンセプトは何ですか？佐賀大学の美術館が県立と同じコンセプトでは意味がないと思います。
- すみわけは検討しているし、そのためにも美術館・正門整備委員会及び建設WGに県立美術館館長に参加いただいています。また、大学独自のコンセプトで、高価な美術・工芸品等は所蔵しないで、企画展等は予定しています。

- 年間の維持費はどのくらいなるのですか？
- 配置予定の学芸員に係る人件費及び光熱水料等、最低経費のみを予定しています。

- 一般的な美術・工芸品等を所蔵する場合のセキュリティ対策が必要になると思います。
- 佐賀大学出身者の有名な方の作品を中心に所蔵し、あとは企画展の開催、また、作品を定期的に入れ替えるなどの両面運営を考えるべきだと思います。
- セキュリティ対策も考えたいと思います、また、企画展や入れ替えについては、OB等の作品で可能と思われます。

- 建物も目につくように斬新的なものが良いと思いますが、工学系研究科の教員にアイデアを求めてはいかがでしょうか？
- 学生の卒業制作展も実施されるのか？
- アイデアは学内を含め募集したいと思います。また、卒業制作展は、相当なスペースが必要なため、県立美術館で実施しており、大学の美術館で実施する場合は、〇〇賞を受賞した卒業生を対象にする程度で良いかと思います。なお、彫刻については、屋外にも展示したいと思います。

- コンサルタントへの発注準備は進んでいるのでしょうか？
- 年末を目途に、アイデア募集を検討しているところです。
- 美術館と正門の一体となれば、良い建物が期待されると思います。
- 有名な建築家とか予定しているのですか？
- 具体的にはありませんが、色々なアイデアを設計の中に具現化する予定ですが、あまり奇抜すぎるのも大学のイメージを損なうおそれがあるため、基本的な構想を基にアイデアを募集する予定です。

- 大学周辺は水路が碁盤目の様に廻っていることから、水と調和した美術館の構想はいかがでしょうか？また、佐賀のイメージは焼物であることから、地域の目玉になるものが良いと思います。
- 最初は、旧制佐賀高校をイメージした意見がありました。

- 水に浮いた様なイメージがある建物にしたなら、東角の庭園とのマッチングが良いと思います。
- 大学周辺は地盤が低いので、高床式的な建物が良いかと思います。金沢にある近代美術館等を参考にしたら良いかと思います。
- 一番気がかりなのが維持費及びセキュリティの問題かと思います。また、正門から見える佐賀大学のシンボルとなる建物のイメージが湧かない。

本社の1階が美術館であり、月四千人程度の訪問者がいますが、すべて受付を通る必要から、セキュリティ対策は講じています。

- 市民が気楽に来れるような建物の入口を癒やしの雰囲気のあるものにしていただきたいと思います。
- 正門と美術館を一体化で整備することは、正しい方向性であると思えますし、建物はコストを抑えたシンプルなしないと空調やセキュリティの問題に繋がると思えます。また、大学の立派さ（威厳）は、正門からの透視画法的な奥行きが大事だと思いますので、正門の両脇にややシメトリ的な彫刻を設置すれば感じの良い空間ができるので、大きさを統一した彫塑をうまく活用できたら良いと思います。
- ランニングコストや建設コストの懸念もありますが、県立美術館とのすみわけ、佐賀大学美術館の特徴等を考えた場合、佐賀大学出身者の作品だけで『人を呼べるのか』の不安があるため、癒しの場所、また文化教育学部や工学系研究科で体験可能な近未来技術を現代アート風に常設してARだけでなく、バーチャルリアリティ等の知恵を生かした総合大学の美術館を目指していけたら、東京芸術大学及び佐賀県立美術館と違う美術館になるのではと思いますし、C a f eを設置できたら、なお良いかと思います。
- バーチャルの美術館でしたら、参考になるものとして、大日本印刷（東京五反田）にあります。